

令和6年度まちづくり座談会会議録

開催日時	令和6年8月6日（火）午後7時00分～午後8時40分			
開催場所	駒籠公民館			
出席者	町 長 産業振興課農林主幹 建設課長 総務課長 総務課	庄司 中 森 光弥 大沼進悟 土屋弘行 名垣遼河	副町長 まちづくり推進課長 教育文化課長 総務主幹	高橋 裕 大山和彦 小林基流 小玉大輔
出席者	17名			

議事概要

1. 開 会	土屋総務課長の進行で開会する。（午後7時00分）
2. 副町長自己紹介	高橋副町長が挨拶を行う。
3. 町長説明	庄司町長が説明を行う。
4. 懇談	
土屋総務課長	皆様からご意見、ご提言などをいただければと思っておりますが、発言される際は大変申し訳ございませんが、地区名とお名前をおっしゃっていただいてから発言をお願いしたいと存じますので、よろしくお願いいたします。 なおですね、皆様の方に事前に意見をいただいておりますので、これらの趣旨について、最初に区長さんから少しお話しただいて、それに対しての答えをさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
参加者	1項目なんですけど、町の町報とか連絡文書が月2回地区に配布されています。10日、25日を基準に来てるんですが、この配布の作業がなかなか区長とか隣組長は非常に大変だという意見がいっぱいありました。実はうちの会社の従業員が尾花沢市から来ている者がいたので聞くと、尾花沢市では、数年前にその意見を言って1回にしてもらったということでありますので、可能であれば実現していただきたいという趣旨であります。
土屋総務課長	ただいまの件につきましては、総務課の方から答えさせていただきますが、尾花沢市で月に1回というようなことは承知をしております。尾花沢の方にどういう感じか確認をしたところです。月1回になったことによって配布する方は多分楽にはなったかとは思いますが、ただ、やはりデメリットとしまして、月1回となりますと、情報がタイムリーに出せないという点と、スペースの関係で、もっと情報発信したいんだけど、絞り込んでお知らせしないといけないため、全ての情報を市民の方に発信できない状況にあるんだというお話もありました。そのような状況を尾花沢市の方からも聞きまして、また、月に1回となりますと、その1回が大変になるんじゃないかなと考えたところでございます。つきましては、当面はこの月2回でさせていただいて。ただ前から言われております。配布の枚数をまとめるとか、その辺について少し庁舎内の方でも強化をして、なるべく配布物は少なくなるよう

参加者	にという形で考えてまいりたいと思っております。 できるだけ回覧とかを利用して配るとか、連絡事項は連絡事項でまとめていただくとかですね。 また、除草はやってるんですけども。地区と地区を結ぶ幹線路です。これについてはなかなか手が回らなくなっている現状です。それで可能な限りしているのですが、町の方で対応していただきたいと思います。
大沼建設課長	町道の除草などの維持管理につきましては、本当に各地区のご協力をいただいております、この場を借りて本当に感謝申し上げるところです。それから、おっしゃられるような各地区による作業協力など、年々なかなか指摘のとおり、人口減少とか高齢化の進展などで本当に難しくなっていることも我々も当然承知しているところで、今後の対応については内部でも検討しているところです。特に大浦から白鷺までの間の白鷺線になりますが、幅員が狭くなる等の影響があるということも我々も当然承知しているんですが、限られた人員の中で順に作業をしていますので、なかなかそのタイミング良く作業に入れればいいんですが、なかなか難しいというのが現在の状況です。その辺もご理解いただきながら、本当に異常事態や危険があるということであれば、すぐさまそこは対応しなければいけませんので、地元の方から注意して見ていただきながら、必要であればご連絡いただければ、そこは即対応していきたいと思いますので、ご理解をなんとかお願いしたいなと思うところです。ありがとうございます。
参加者	また、紀文さんからいただいた太鼓を叩く子どももいなくなりましたので、今現状、公民館の2階に保管している現状です。この太鼓につきましては、維持管理を実はちゃんとやらないとダメなものであって、地区では維持管理ができる環境がありませんので、ぜひ町の方で活用していただいて、有効活用を行っていただきたいという意見です。
小林教育文化課長	学校では太鼓の授業もしているのですが、鷹巣の雪国太鼓の方たちが来て教えたりはしているんですけども、そちらでは自分たちの太鼓を持ってきてやったりしているので、学校での利用というのはちょっと今考えられない状態です。学校以外のところで、社会教育とか生涯学習とかで使える場面があればいいんですけども、今のところ太鼓の団体っていうのも町の方にはいくつか団体があるようですけども、町の芸術文化協会にも所属していないので、そちらともちょっと話をつけるのもなかなか難しいのかなと思います。
大山まちづくり推進課長	町でそういった太鼓団体があるのも分かっているんですけども、皮の状態も大丈夫なのかということも確認しなきゃいけないとの話もありましたので、今すぐ活用の見込みがあるのかというと、正直まだまだその状態を把握していないです。もし使いたい団体があって、欲しいという声がありましたらご連絡差しあげたいと思います。

参加者	地区内に2つ神社がありまして、小坂峠に地藏様というのがありまして、この維持管理につきまして、町に補助いただきたい。
土屋総務課長	もしその神社とかが、文化財とかそういうことになっていれば、保存ということで可能かと思うんですけども、現在でもそういうところはたくさんあるのですが、政教分離の原則がありますので、やはりその部分に対して町として対応は難しいのかなと思われます。
参加者	稲荷神社の由来とか、歴史についても町の方で調べていただいて、文化財になるかもしれないということであれば見ていただきたい。
小林教育文化課長	そういう文献なんかがあればそういうのを紐解くということはあると思うんですが、神社とかもいろいろ町内にはいっぱいあると思うんですけど、それぞれ云われがあって、それぞれのやっぱり神様がいてっていうことなので、そういうのを資料館の方で分かるのか、その辺も含めてちょっと確認してみたいと思います。
参加者	一人暮らしにつきましては、安否確認とかですね。先ほど町長からもあったんですが、その他にもきめ細かく考えて、対応していただきたいというふうに思っております。民生委員が確認はしているようですが、手が回らないこともありますし、さらに進むように対策を練っていただきたいと思います。
土屋総務課長	今日ちょっと保健福祉課が不在のため、私からお答えさせていただきますが、冬期間や一人暮らしの確認について、保健福祉課の方でも対策を練ってまいりたいと思います。
参加者	大浦地区の公民館の中には防災倉庫を兼ねるスペースがありますので、ぜひ備えることのできる地区から逐次詰めていってほしいと思います。
土屋総務課長	備蓄品ということだと思うんですが、一応今年度にですね、備蓄品の補助制度というものを、二分の一の補助率で上限5万円ということで、新しく始めたばかりでございまして、今のところはその制度で考えてまいりたいと思います。
参加者	町の備蓄品は役場にあるんですか。
土屋総務課長	はい。備蓄品も一気にやっぱり買えないので、毎年防災訓練でそれを活用したりしています。
参加者	1か所で持っておくのはちょっともったいないなと思ったんですけど、何があるか分からないので。
参加者	資料の「町の財政」の「その他収入」というのは具体的に何か。

土屋総務課長	その他の収入としましては、施設の使用料とかです。
参加者	ふるさと納税の収入はどのくらいなのか。
大山まちづくり推進課長	昨年の収入で6億7,000万円ほど寄付をいただきました。経費は人件費を含めて半分以下に抑えなさいということ言われています。
参加者	3億ぐらいあるんですか。
大山まちづくり推進課長	そう考えていただいてよろしいかと思います。
参加者	地方交付税はふるさと納税とか法人税とかいろいろあっても、今実際日本で地方交付税は要らないっていう自治体はかなり増えてるんですよ。分かりますか。そういう時代なんですよ。私、何を言いたいかというと、何をするにも結局お金がかかるんです。ですので、町でもなんかそのふるさと納税プラス町にお金が入る方法とか考えているのかということなんですけど。具体的に考えてますか。例えば、千本だんごや蕎麦があります。すごいお客さんが来てるんですよ。そのお客さんが、ただ蕎麦を食ったり、団子を買ったりして帰る。なぜすぐ帰るのかというと何も見る場所が無いから。 ですから、何か整備をして、そのお客さんが周りにお金を落とすような方法を考えるべきじゃないのかなと私は思うんですけど。尾花沢市も徳良湖を拠点としていろんなことやってますよね。そういうの町でそんなことやってるかどうかってことなんですね。結局お金が無いからできない。お金さえあれば何でもできるんです。中央の人なんて、何にお金使って良いか分かんないほど持ってるんです。例えば、駒籠の遺跡です。あそこは県で発掘したんですけど、予算が無くて中途半端なんです。例えばですね、お金があれば昔の建物建てて、見に来る人がたくさんいるんですよ。そういう方法もあるんですよ。駒籠小学校の校章がなんだか分かりますか。無くなりましたけど。カタクリの花です。ですから、駒籠地区はカタクリの花の群生地なんです。そういうふうになんか良いですけど、そういうの整備してお客さんを誘致して見てもらうことで、お金も使ってもらう。そういうふうになんかお金を儲ける方法を考えたら良いんじゃないですかと私は思うんです。 あと雪だって逆に考えれば雪を味方にすればいろんな方法あるんですね。そういうふうになんか儲かる方法を考えていった方が良いんじゃないかなと思います。あと配布物なんてはっきり言ってゴミですよ。あんなものは1回で回覧して、終わったらもう町に返すとか。ですから、集約して回数を減らして回覧にして、少しでもゴミを減らすべきです。今までこうやってたから変えられない、変える気ないからです。変えていきましょう。 私も個人的にですけども、裏のスーパー農道が長いからボランティアで草を刈っ

	ているんですね。10年以上やってるんですけど、町で管理ですよ。町で見えて見ぬふりですからね。全然管理してない。発注だけしてどんな仕事やってるとか。とにかくやることやってもらわないと。あとはもうお金を儲けること考えないと。これからもっと町の人みんな出ていきますよ。子育て支援なんて他なんかすごいですよ。別の自治体を町の職員は見てくるべきなんです。どういうことやっているのか。県の農林大学、あそこで林業科ありましたよね。それに伴ってアパートも舟形に誘致している。他では、そういうことやってんですよ。イベントもやってます。それが大石田では少なすぎるんですよ。町長をトップにして、そういうことも並行で考えていかないとダメなんじゃないかなと思う。ますます若い人は外に出ていきますよ。結局お金が無いから何でもできないんです。以上です。
庄司町長	はい、ありがとうございます。ほんと僕も商売していましたので、お客さんがもっと町中を巡るようにしなきゃいけないとずっと考えていまして。ものすごくインバウンドのお客さんが駅に降りていきますし、冬なんか革靴とか普通のサンダルで回っているのもすごく見ております。で、今年僕が見たのは、言葉は悪いですが、汚い役場前の駐車場の雪山をバックに記念撮影しているんですね。僕も何人かの写真を撮ってと言われて撮ったんですけども、そういう逆手に取るというか、雪をうまく使って、観光客に見せられるようなことをして頑張れないかなと思っております。
参加者	次年子の雪室とか尾花沢市の雪室とか、雪を味方にしてもらいたい。ふるさと納税もやっぱ返礼品として蕎麦とか良い物があるので、納税してもらいたい。
庄司町長	はい、ありがとうございます。
参加者	職業は大工をやっておりますけども、冬期間はハウスでタラの芽の促成栽培をやってきたんですけど、だんだん需要が少なくなっている。その前に大石田町に山菜組合っていうのがあるんですが、で、その山菜組合に入っているんですけど、だんだん年齢のせいもあって人数が減っているんですよ。最初は、自分はタラの芽の促成栽培やってたんだけど、やっぱり利益がほとんど無いので割りに合わない。値段が安いので、今は販売だけに切り替えたが、それでも組合員がだんだん減ってきて、今5人ぐらいになっている。農協の担当の人もあるんですけども、仲間を増やそうということでやってはいるんですけども、なかなかやっぱり仲間が増えないわけ。ハウスも必要になってくるし。ハウス立てれば、当然除雪も要るわけだから、それともなかなかね。仲間を増やそうとするといろいろ資本的なものも掛かるのでなかなか増やせる状況にない。やっぱり年齢の関係も悪くて年々減ってるんですね。そこ何とか増やしたいなって私は思ってるんですけど。その辺、町の方でちょっとなんかありましたら。
森農林主幹	国や県からの補助とかそういった出せるものがあるかどうか、ちょっと私もまだ勉強不足で把握していないんですけども、ちょっと時間をいただいて、調べてみたいと思います。

参加者	特産品で冬の間の収入っていうのはあまり無いので。大工辞めたらそっちの方面になんとか力入れてやりたいなと思ってるんだけど。だとしても結局自分は職業的に大工なもんだから、そういった関係の繋がりが全然ないわけよ。全体的に人も数少ないから。できれば大石田の特産とかにそういった力を入れてもらえれば良いかなと思うんだけど。
庄司町長	県とか国にも確認しながらですね。県でも今「やまがた産業支援機構」を4月から立ち上げてですね。そういう小規模の事業者あたり、中小企業の方々のこの様々な設備投資であったり、企業支援とか事業とかを支援する組織を、この度立ち上げたんですけれども。そういった情報も今度産業振興課を通してご連絡したいと思います。
参加者	スポーツ広場がどのように変わっていくのか。小学校が統合なるにつれて、あそこがグラウンドになるのか、そこら辺の経緯を聞きたいんです。
小林教育文化課長	統合小学校が現在の中学校の多目的グラウンドの方に建築されます。けれども、下のスポーツ広場については今のところ工事をするなどの予定は無いです。
参加者	今後小学校のグラウンドはどうなるんですか。
小林教育文化課長	小学校の校舎の脇にある100mは取れないぐらいのグラウンドが整備されますが、大きな運動会とか100mの記録を取るとかっていう時には、今中学校で使っている道路向かい側にあるグラウンドを使う予定で、今整備を進めています。どうしてもその道路を渡るのが危ないから、ダメだっていう意見が多くなってくると、じゃあスポーツ広場っていうふうになっちゃうんですけれども、そこは今のところは考えていませんので、現在のところは向かいのグラウンドを使うということを想定しています。
参加者	なんか千本だんごに来てそのまま帰るって言うんだけど。グラウンドゴルフとかで、大石田町にもあの「町長杯」とか「あったまりランド杯」とかそういうものを作って、お客さんを呼ぶって方法もあるんですよ。村山市では年に3回大会をやっているんですよ。泊まり込みですよ。そういうやり方もあるんじゃないかなと思います。ぜひそういうふうに大きな大会を開催して人を呼ぶのも一つの方法だと思います。 あともう一つですけども。高齢社会になってくるわけなんですけど、うちの地区でも草刈り毎月で1回ぐらいあるんですよ。何歳からそういうのに携わらなくて良いのか、ちょっとそこら辺を町で決めてもらいたいと思う。
大山まちづくり推進課長	草刈りも町で依頼している毎月1日、第1日曜日の朝クリーンアップでお願いしてる地区内清掃や河川の清掃とかのそういった草刈りもあると思いますし、地区の中で農地水とかそういったものの草刈りとかもあると思うんですけど、一概に町

	で年齢がここまでっていう制限はなかなか難しいと思います。
参加者	高齢者でちゃんと自分で調整して、対応したいと思う。
参加者	草刈りとか、高齢化で参加できませんよ、その代わりお金払って罰金みたいな感じで払いますよ、そういう問題で私はないと思います。草が茂れば、水は流れることはないし。しないといけないことはしないといけない。どこまで制限かけるかとか、それは間違いです。できなかったら業者で委託しかない。私北部組合に言ったんですけど。用水路や排水路は個人の持ち物ではない、あなたたちの管理なのだから、管理するべきだと言ったんですけど。しないといけないことはしないといけない。できなかったらやっぱ業者に委託するとかね。そういう方法しかないわけ。
参加者	北村山郡の中で毎月だいたい日曜日の朝にボランティアがあるっていう所が大石田だけだと思います。冬場は雪道愛護デーもある。他の市町村から見ると多いように私自身は感じる。この草刈りとかは、他の市町村とかもあると思うんですけども、美化に関してはすごく良いことだと思うんですけども、どんどん人口が減っていくので、あくまでボランティアなんだけど、半分義務の中でみんなやるので、ちょっと負担になってるところはあると思うんです。部落でも花植えとかほかにも事業もある。 これはもうちょっと。もう決まっていることなのかもしれませんが、検討していただきたいと思うんです。
大山まちづくり推進課長	月1回のクリーンアップの件ですけれども、町は関わっておりますので、そういったご提案がありましたということで町の衛生組織連合会、こちらの方で理事会がありますので、議題として提案させていただきます。
参加者	グラウンドだって使っていないんだから草が生えるのは当たり前。使うんだったらやっぱ除草とかそんな処理はなかなかできない。例えば、お金がかかるけども、防草シートとかいろんな方法があるわけで、例えば塩カルとか撒いて、あれを撒くと草が生えない。公社でもソーレでも町でお任せしますとしているが、かわいそうで草刈りしたりしてあげている。使うとか使わないとかに合わせてできる方法を考えていかないといけないと思う。
庄司町長	草の処理についても調べさせていただきます。
参加者	支援パンフレットはいつからあるのか。
土屋総務課長	パンフレットは5年位前からだと思います。
参加者	全然知らなかったの。

参加者	駒籠開田組合でも電気料高騰で昨年度は町から補助をいただき何とか間に合いました。今年度もよろしくお願ひしたい。負担金の増額も方法としてありますが、そうしてしまうと借りている方がさらに払うことになる。そうすると借りることを辞めてしまうが、作れないので貸しているというところもあるのでなかなか難しい。ぜひ昨年同様に補助金をいただければとお願ひ申し上げます。 あと、ペットボトルのリサイクル事業なのですが、ゴミの減量化ということで進めるということなんですけども。今まで出してるペットボトルはゴミでそれをリサイクルに回すということになるとか何かなるのか。
森農林主幹	最初の方の負担金の件ですけれども、こちらもち帰って課の方で相談させていただきたいと思います。
大山まちづくり推進課長	ペットボトルの水平リサイクルで何が変わるかっていうと、実際にリサイクルとして取り扱う物を業者さんに売っているわけなんですけれど、そこは変わらないです。 今回結ばせてもらったのは、ペットボトルをペットボトルに新たにリサイクルする協定を結ばせていただいた。今までペットボトルの製品が全てペットボトルになるわけではなく、別のものに変わったり、最悪リサイクルできなくなるようなプラスチック製に変わる場合もあったので、それをできるだけサントリーさんと提携したのはペットボトルからペットボトルにリサイクルを進めるために協定を締結させていただきました。その時のゴミも売ってるんですけれど、その単価自体は変わらないです。
参加者	ごみとして出した部分がリサイクルなるということですか。
大山まちづくり推進課長	はい。
参加者	小学校が3校統合するっていう話が出ているんですけども、保育園の方はどうか。ふたば横山保育園が来年止めてしまうとのことだが、統合するっていう形をとるのか、それともどっちかが残るのか。
庄司町長	来年の4月からふたば横山保育園が無くなりまして、ふたば保育園と合併することに決まりまして、その説明会も先日行わせていただきました。当面はそのふたば保育園と大石田保育園の2園体制で進めていきますが、今後少子化が進むにつれて、これからどうしていくかは、これから検討しながら進めていかなければいけないと考えております。
参加者	冬場の除雪のことなんですけども。駒籠の場合は流雪溝が県道の方にあるわけなんですけど、かなり水量が少ない状態なんですけど、その水量を上げてもらうような方法とか県道以外にも広範囲にしてもらおうとか、違う形での除排雪などの考えを教え

	ていただきたい。
大沼建設課長	流雪溝の水量が少ないのは承知しておりまして、なかなか県のポンプを交換するにも費用がかかるということもあって、県の流雪溝になりますので、地元の方からもそういった要望をぜひ引き続き行い、実現できるように動いていきたいと思いますので、これからも引き続きお願いしたいと思います。もうちょっとお時間をいただきたいと思います。
参加者	じゃあ水量の件に関してはそれで分かりました。ポンプ据え付けてある場所なんですが、いつも水が上がると不具合が発生して、取水口に関しても、毎年掘り下げたりしなくちゃならないんです。その辺の対応が遅くて、いつ雪降るかみたいな感じになる。去年みたいに雪が少なければ良いんですけども。今ある施設に関して水が上がっても大丈夫なようにとか、取り入れ口の錆の撤去とかその辺の早期発注とか、少し検討してもらえないかなと思ってるんですが。
大沼建設課長	はい、ありがとうございます。本当にせっかくある施設をうまく使えないというのが、それこそもったいないということですので、そういったことがこれまであったとすれば、そこはちゃんと直していけるように持ち帰って、内部の方でもどうすれば良いのかということを検討させていただきたいと思います。
参加者	続けて、除雪の件なんですけども、県道も町道もそうなんですけども、大きなブルドーザーで両脇に押し付けて行くわけです。その雪を流雪溝の方に捨てるという形になってるんですが、あとは流雪溝の無いところは自分たちでその間口を開けたりするために高齢の人たちが大変苦労しているような現状なんです。村山市だと間口除雪っていう形で業者さんの方に委託してとかいろいろやってるようなんですけども、その辺、町内でも他の地区からはそういった間口除雪とか要望は出ていないんですか。町としてはどういうふうを考えていらっしゃるのか。自分たちはいろいろと協力し合って、その組合でとか頑張ってるボランティアでやってくれてる人がいるので、なんとか保っているような感じなんです。
大沼建設課長	はい、ありがとうございます。流雪溝とも関連してくる問題で、流雪溝がある部分においてはまだまだいくらかマシな方だと思うんですけど、今おっしゃったように、やはり高齢者の特に一人暮らしの方なんかは苦労なさるというお話は当然我々も耳にしていますし、認識はしております。間口除雪は村山市が大々的に始めたことは聞いていますが、結局、広く除雪をするのか、それとも細かい部分を除雪していくのかというところで村山市も苦労されてるっていう話は聞いております。他の地区からもそういった要望は当然聞いていますが、なかなかその今言ったように各家々を丁寧にすれば、ほかの所になかなか行き届かなくなるという問題もあって。まずは、大きな幹線を確保しないといけないということもありますので、共助をいただきながら、町でも除雪をしていきたいと思っております。しかしながら、高齢化もあり、ずっと現状を維持できるわけでもないと考えておりますので、そのようなことを皆さんと考えながら進めていかないといけないと思います。

参加者	雪の押し付け場所もここで良いと言っても、後で春先に排雪するのが大変だから押してくれないという話も聞いたことがあるがどうなのか。
大沼建設課長	雪押し場についても区長さんのご協力をいただきながら、地区内で場所を確保していただいているところであります。春先に畑であれば作業に入りたいのでということであれば、その業者さんに何とか早めにしていただいています、そういったことで、やはり地区からも協力をお願いしたいなと思っています。
参加者	前だと隣組とかで雪押し場にして良いかとあいさつ回っていた。今は曖昧になってしまっているが、前はそのようにしていた。
大沼建設課長	除雪の区長さんへの説明会でもそういうふうに説明させていただいています。その辺を徹底できるように我々も内部でちゃんと引き続きするようにしたいと思います。
参加者	除雪の件なんだけど、来る時が遅い時とかその時間差が結構あって、私も何回も電話したことあるんだけど。屋根から落ちた雪を道路の除雪と一緒にして行くんですよ。普通は屋根から落ちた雪は自分の家で片付けることになってるんですけども、それはどういうことなのかちょっと聞きたいんだけど。
大沼建設課長	まず最初の除雪についての早い遅いはやっぱり雪の降る量などその日ごとの状況で変わる場合がありますので。
参加者	何度も電話して、今度は私が見に行きました。ここにいますって言われたので行ってみたらいないんですよ。もうなんだ。これまた嘘つかれたのかなと思って。
大沼建設課長	それは申し訳ないです。いろいろな現場を動いているので。
参加者	動いてる人は分かるんだけど、嘘の無いようにしてほしい。
大沼建設課長	多分嘘だとは思ってないと思うんですけど、もし嘘だとしたらそれは申し訳ないです。
参加者	屋根から落ちた雪は自己責任で、その持ち主が片付けることになっているそうですね。それがなくなっているところがあるんですよ。それ違反でしょうって業者に何度も言ったんですけど、何にも言わないし、それはおかしいなと思って。
大沼建設課長	そういうことであればそうですね。
参加者	次世代へ虹をかけるという大きいスローガンなんですけど、ちょっとこの場で本

庄司町長	心として今問題なのはみんな愚痴が多いです。なんかって言うと人が少ない。人口の流出などぶっちゃけどう考えてますか。 若者が夢を持って出ていくのはしょうがないとも思う。やはり実際やりたい仕事があって、いろんな夢を持って出ていくのはしょうがないと思うんです。それを引き止めることはできないと思います。僕も実際、町外で5年間働いているんですけども。ただそこですすね、戻ってこなくて良いという雰囲気を作りたくは無いです。漠然としているかもしれないですが、とある経営者から言われたのが、絶対に子どもに帰ってくるなとか家を継がなくても良いよということは言わない方が良いよっていうふうに教えられたのもあります。子どもがどっかの脳裏では俺帰ってこなくて良いんだからとか、帰ってきちゃダメなんだなっていう思いを持ってしまふ。 なので、戻って来れるような体制や、やはり子育て支援をしっかりとすると、子育ての住宅であったり、なんか色々なサポートをできるようなまちづくりをしていきたいと思う。
参加者	子どもを育てる働き場が無い。あっても小規模なもの。村山、東根までは何とか通っている人もいる。嫁を貰う時に雪の降る大石田に行きたくない、せっかく勤め先が東根なんだから東根に住むというような流出が一番多いと思う。それ一番原因だと思うのよ。我々も正直嫌々大石田に残っている。雪の無い所が良い。私、職人やってるもんだけども、降雪もしくは残雪がない5月過ぎから10月ぐらいまでは地元で仕事できます。でもやっぱり、冬場はここで仕事できないんだよ。大石田町は職人の町として栄えてきたところです。冬になれば山形方面に向かいます。我慢してます。みんな他所から給料もらって大石田町に納税します。少子高齢化にお金かけるのも良いけど、今働いている世代にも目を向けてほしい。まず外に出ない方向で企業誘致を頑張ってほしい。小さい工業団地でも大きい会社を誘致できれば人口は留められると思うんです。個人的にそう思いました。
庄司町長	新幹線が止まる駅というのを最大限利用してそういう企業誘致も頑張っていきたいと思います。
参加者	数年前から地域協力隊がずっと活動してますけど、本当に実績あるんですか。利得的には絶対ないと思うんですが。でもその発信してることは色々してるんだろうけど、我々末端までは全然伝わってこないんです。
庄司町長	今回2週間で終わったんですけども、スイカのお手伝いというかですね、農業インターンシップというので、全国から4名の方に手伝いに来ていただきました。それをコーディネートしたのも今年3月まで地域おこし協力隊としていらっしゃった方です。今回民泊施設を仲通りのところに作って、今それも営業をしております。もちろん帰られた方もおるので、一概には言えませんが、Koe no Kura もしっかりと運営していただいているかと思いますね。

参加者	我々から見れば赤字経営なんだけど。民間もしくは個人だったら絶対倒産になるね。そういうことを多分みんな思ってると思う。なんかちょっと上手な方法無いのかなと思う。
土屋総務課長	時間にもなりましたので。本日の座談会で皆様から様々なご意見もいただきましたし、ご提言もいただきました。本当にありがとうございます。いただいたご意見について、今後のまちづくりに十分に活かしてまいりたいというふうに考えておりますので、これからもご指導、ご協力のほどよろしくお願いしたいと思います。 なおですね、本日のこの座談会の内容については文字に起こしまして、概要的になるかと思うんですが、ホームページの方に掲載する予定でおりますので、ご了解をお願いしたいと思います。 では、以上をもちまして、本日のまちづくり座談会を終了とさせていただきます。皆様、本当に誠にありがとうございました。お疲れ様でした。
6. 閉 会 （午後8時40分）	